

2026 年 6 月 8 日

■DSEI が映し出す未来

——「軍事化されたレント資本主義」か、「再生産中心社会」か

幕張メッセで開催されている DSEI Japan (国際防衛・安全保障総合展示会) に対して、多くの市民が疑問の声を上げています。

「なぜ県民の公共施設で武器見本市・武器の商談会を開くのか」「なぜ戦争を助長するようなイベントを自治体が認めるのか」。当然の疑問です。

しかし、現在の DSEI の意味は、それだけではありません。今日の DSEI は単なる武器見本市ではなく、軍事化されたレント資本主義の見本市になりつつあります。そしてそのことは、私たちが生きる社会そのものがどこへ向かおうとしているのかを映し出しています。

いま問われているのは、戦争か平和か、という問題だけではありません。私たちの社会を、軍事と監視を中心に組み立てるのか、それとも人々の生活と再生産を中心に組み立てるのか、という歴史的選択の問題なのです。

▼DSEI に集まる新しい資本

かつて軍需産業といえば、戦車、軍艦、戦闘機、ミサイル等々を作る企業でした。しかし現在の DSEI には、そうした企業だけではなく、AI 企業、データ企業、サイバー企業、宇宙企業、監視技術企業などが大量に参加しています。

その象徴がパランティアです。パランティアは戦車を作りません。ミサイルも作りません。しかし、衛星情報、ドローン映像、通信データ、戦場情報などを統合し、軍や情報機関に提供するシステムを開発しています。また近年では、アンソロピックや OpenAI のような AI 企業も、軍事・安全保障分野との結びつきを強めています。

つまり現代戦争は、兵器だけでなく、情報、データ、AI、監視技術などによって遂行されるようになっているのです。ここに現代資本主義の新しい特徴が現れています。

▼レント資本主義の軍事化

立教大学の佐々木隆治氏は、現代資本主義の中心には「レント資本」が存在すると論じています。レント資本とは、工場で商品を生産することで利益を得るのではなく、社会の基盤を支配することで利益を得る資本です。

Google は検索を支配し、Amazon は電子商取引を支配し、Microsoft はソフトウェア基盤を支配し、Meta は SNS を支配しています。そしてパランティアは、軍事情報基盤を支配しようとしているのです。

彼らの利益の源泉は、生産そのものではありません。ネットワーク、データ、プラットフォーム、知的財産権の独占です。つまり現代資本主義では、利潤よりもレントが重要になりつつあるのです。

しかしレント資本も無限に成長できるわけではありません。市場が飽和し、競争が激化すると、より安定した収益源を求めるようになります。そこで彼らが向かう先が、国家と軍事です。

▼利潤率低下と軍事市場

なぜそうなるのでしょうか。その背景には資本主義の長期的な利潤率低下があります。投資をしても十分な利潤が上がらない。市場は成熟し、人口は伸び悩み、新しい投資先は限られている。

こうした状況の中で、資本はまず労働者への搾取を強化しました。次に金融市場へ向かいました。さらにプラットフォームを独占し、レントを獲得する方向へ進みました。

しかしそれでも問題は解決しません。そこで最後に現れるのが、国家依存です。国家は税金を徴収できる。国家は国債を発行できる。国家は軍事予算を削減しにくい。軍事市場は、資本にとって最も安定した市場のひとつなのです。

そのためレント資本は現在、国家と軍隊との結びつきを急速に強めています。

▼フレイザーが語る「カニバル資本主義」

ナンシー・フレイザーは現在の資本主義を「カニバル資本主義」と呼んでいます。カニバルとは「人食い」です。

資本主義は本来、自らを支える基盤に依存しています。それは、自然、ケア労働、家族、教育、公共サービス、民主主義などです。

しかし現代資本主義は、それらを守るどころか食い尽くしています。医療を削り、教育を削り、福祉を削り、地域社会を衰退させながら、軍事費だけは増やしていく。それはまさに、自らを支える土台を食い尽くす「カニバル」の姿です。

DSEI の拡大は、このカニバル資本主義の象徴でもあります。

▼フェデリチが語る再生産の危機

シルヴィア・フェデリチは、資本主義がしばしば見落としてきた「再生産」の重要性を強調してきました。再生産とは、人間が生き続けるために必要な営みです。子育て、教育、医療、介護、家事、地域の支え合いなど、これらがなければ社会は存続できません。

しかし現在、社会の資源は再生産ではなく、軍事へと振り向けられています。武器を作るためのお金は出ます。しかし保育士を増やすお金は出さない。軍事研究には補助金が出る。しかし介護現場は人手不足のまま放置される。これが現実です。

軍事化されたレント資本主義は、再生産領域から資源を吸い上げることで成り立っています。

▼DSEI の本当の意味

こうして見ると、DSEI とは何かが見えてきます。それは単なる武器展示会・兵器の商談会ではありません。そこでは、国家、軍隊、レント資本、AI 企業、監視企業が結びついています。そして彼らは、社会的富を軍事へと振り向ける巨大なシステムを形成しています。

DSEI は、軍事化されたレント資本主義の縮図なのです。

▼私たちが対置すべきもの

では、それに対して何を掲げるべきでしょうか。単なる反戦だけでは十分ではありません。必要なのは、別の社会像です。それは、軍事中心社会ではなく、再生産中心社会となる以外にありません。そこでは、軍事費の拡大ではなく、医療、介護、教育、子育て、住宅、環境保全が優先されます。

AI やデジタル技術も、監視や戦争のためではなく、人々の生活を支えるために利用されます。経済の目的も、軍需企業やプラットフォーム企業の利益ではなく、人々の暮らしの維持と向上になります。

▼「武器見本市反対」の先へ

だから私たちは、DSEI に反対します。しかしそれは、単に武器を嫌悪するという理由からだけではありません。私たちが反対しているのは、社会全体が軍事と監視を中心に組み替えられていく流れに対してです。

そして私たちが求めているのは、再生産を中心に据えた社会への転換です。いま世界で起きていることを一言で表現するなら、それは「軍事化されたレント資本主義」と「再生産中心社会」との歴史的対立と言えるでしょう。

幕張メッセで開催される DSEI をめぐる闘いも、その大きな歴史的対立の一場面なのです。私たちは、どちらの未来を選ぶのか。いま、そのことが問われています。